

## 平成13年度に発生した軽微な異常事象にかかる恒久対策工事の終了について

### 敦賀発電所1号機

#### フィルタスラッジ貯蔵タンク（A）、（B）の恒久対策工事

#### 事象概要

敦賀発電所1号機（沸騰水型軽水炉；定格出力35.7万kW）で、平成13年12月3日、廃棄物処理建屋地下1階のフィルタスラッジ貯蔵タンク<sup>\*1</sup>（A）の底部にある出口配管台溶接部の近傍で水のにじみが確認されたため、接着材により補修した。

また、同室内にある貯蔵タンク（B）でも漏えいの痕跡が確認されたため、接着材により補修した。なお、この事象による周辺環境への放射能の影響はない。

- \*1) 1次冷却材は、その一部をフィルタ等で浄化しており、それらの浄化設備からは使用済のフィルタ助材（セルローズ等）やスラッジ（固形状の不要物）の放射性廃棄物が発生するため、これらを貯蔵するタンクとしてフィルタスラッジ貯蔵タンクがある。フィルタスラッジ貯蔵タンク（A）、（B）は、昭和56年以降系統から隔離し、保管状態としている。

（平成14年1月9日 月例プレスにて報告済）

このため、平成14年7月より、タンク（B）の内容物をタンク（A）に移送した上で、タンク（B）の点検・補修を行い、その後、タンク（B）で全てのフィルタスラッジを貯蔵し隔離保管するとともに、タンク（A）を今後使用しないとする恒久対策工事を開始した。

（平成14年8月6日 月例プレスにて報告済）

#### 推定原因

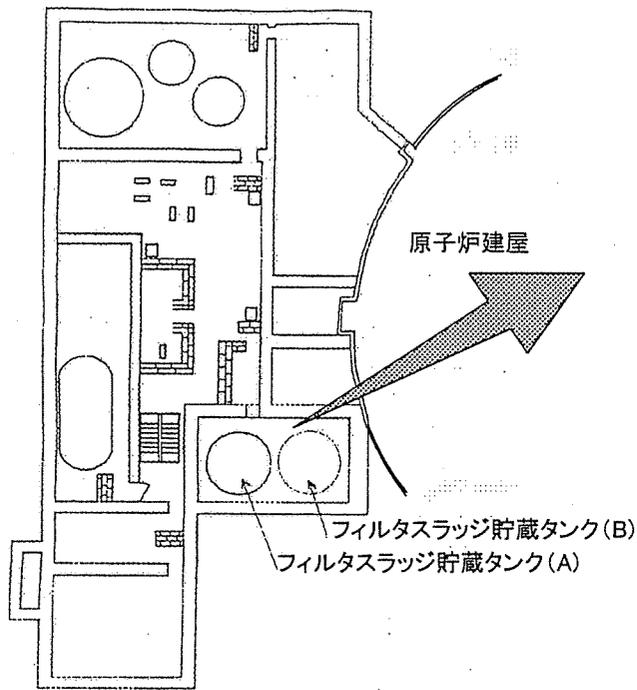
タンク（B）の内容物をタンク（A）に移し、タンク（B）の内部点検を行った結果、タンク内面のエポキシコーティングが、下鏡および胴部で多数浮き上がっているのが認められた。また、コーティングを全て撤去し調査した結果、コーティングの浮き上がりが見られた箇所では、タンク母材が腐食により減肉しているのが認められた。

タンク内面のエポキシコーティングの浮き上がりは、タンク（A）でも認められており、このことから、漏えいに至った原因は、タンクの長年の使用により、タンク水がコーティングを浸透しタンク母材まで到達し、母材に局所的な腐食が発生し、減肉が進行、一部で貫通したものと推定された。

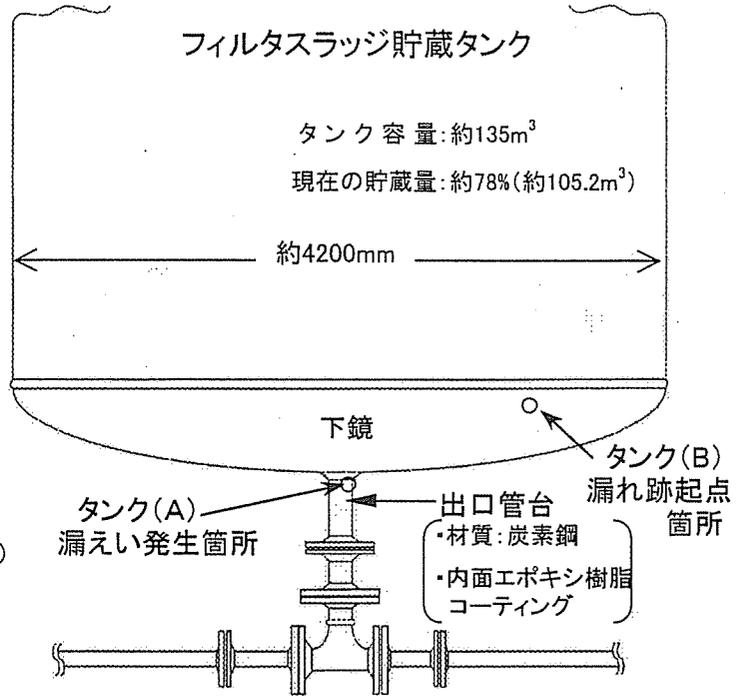
#### 対策

タンク（B）については、出口管台を撤去し閉止措置をとるとともに、漏えいの痕跡が認められた箇所は母材の部分取替えを行い、減肉箇所の肉盛溶接を実施した後、タンク内面を改めてエポキシコーティングを施し、補修を行った。

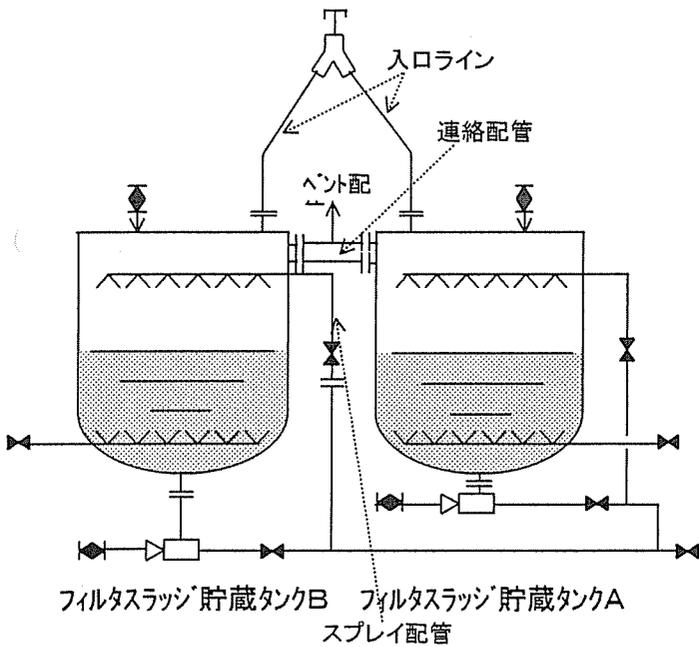
今後は、フィルタスラッジを全てタンク（B）に貯蔵し、タンク（A）は、空状態で隔離保管することとし、平成15年1月28日、恒久対策工事を完了した。



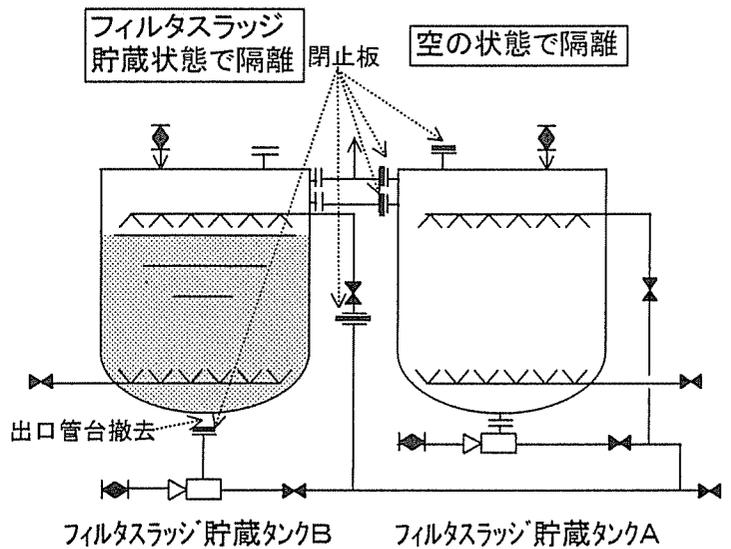
フィルタスラッジ貯蔵タンク(A)等配置図  
(廃棄物処理建屋地下1階)



フィルタスラッジ貯蔵タンク漏えい箇所



恒久対策前



恒久対策後

フィルタスラッジ貯蔵タンクA・B隔離保管状態図